

せんなんネットワーク

第127号

発行：みやぎ地域づくり団体協議会仙南支部

会員活動紹介

「エフエムいわぬま」ラジオ放送中 柴田かたりべの会（柴田町）



西住小学校で毎年1月に行われる民話を聞く会

柴田かたりべの会は、社会福祉協議会主催のシルバーボランティアのための「かたりべ養成講座」が実施され、その受講生が中心となり、平成9年3月に発足。柴田町内の民話をはじめ、語り伝えられてきた口碑伝承を収集研究し、これらを保存し次世代へ継承する目的で活動が始まりました。

地域の歴史や風土など人々の心が詰まった民話や伝説を語り続け、気が付けば随分月日が過ぎてしまいました。今まで何気なく続けてきた

活動資料はあるものの、ずっと放置していた事に深く反省し、平成29年に「しばた民話マップ」、令和4年に「25周年記念誌」を作成しました。

誰もが一度は聞いた事のある『むかし話』を、より多くの人に知ってもらいたい、語り継いでいきたいと幼稚園や保育所、放課後児童クラブ、学校、老人会、福祉施設、デイサービスセンター等へ出向き、ボランティアで「民話の会」を開いてきました。

年間およそ40回の活動は、会員自身のライフワークにもなっています。特に子どもたちとは民話の他、わらべ歌を歌ったり、お手玉やあやとり、折り紙など昔ながらの伝承遊びを一緒に楽しみ、元気もらっています。依頼があれば、ボランティアで出前「民話の会」や現地を案内しながらかたりべを聞いて頂く「民話めぐり」を開いています。

所がコロナ禍になり、令和2年2月25日の船迫放課後児童クラブを最後に、活動を休止しました。でも幸いにも同年5月より「エフエムいわぬま」から「むがぁ～すむかすのはなすっこ」コーナーでの出演オファーを頂き、奇数月に現在もかたりべを放送中。放送された昔話はCDにまとめ、町内の6小学校にプレゼントしています。

これからも無理せずに、細く長く続けていきたいと願っています。



↑しばたの郷土館
観月会のセット



←「しばた民話マップ」
と「25周年記念誌」

地域おこし協力隊として活躍する隊員の方々を紹介します

○今回は、丸森町の地域おこし協力隊として活躍する^{ひきた}疋田素能子隊員を紹介します。

疋田隊員は、キッチンカーで「〇〇（まるまる）とコーヒー」というカフェを営業しており、複数の自家焙煎店から仕入れた多種多様なコーヒーなどを提供しながら、拠点である丸森町以外でも幅広く活動しています。〇〇の部分には、活動ごとにテーマとなる様々な言葉が当てはまります。メインとして取り扱っている焼き芋の他に、丸森産の「青果物」や「総菜」、「弁当」なども販売してきました。また、去年は年3回ほど町役場で実施される献血の際に、献血に協力いただいた方々へ無償でコーヒーを提供し、多い時では1日約70杯のコーヒーを提供することもありました。



疋田隊員は2021年5月より、地域おこし協力隊員として丸森町へ移住してきました。それ以前は仙台市の自動車会社で事務の仕事に就いており、ある日偶然ネットニュースで見かけた協力隊員募集のページを見つけ、もっと人と接する機会がほしいと考え応募したそうです。現在は、広報担当の旦那様とともに、使わなくなった畑を借りて様々な種類の野菜を栽培、ご近所さんとの付き合いなど、丸森町での生活を楽しんでおられました。

疋田隊員は、元々カフェを経営したいと考えていたため、地域おこしの一環としてカフェを開くことを目標に掲げました。焼き芋とコーヒーを提供しようと思い立ち、イノシシが少ない舘矢間地区で畑を借りてさつまいもを生産するところから活動は始まりました。丸森町は自然が多く、集落があちこちにある町であるため、お客様に来てもらうのではなく自分たちがお客様のところを回ればいいという発想から、現在のキッチンカーというスタイルになったそうです。



地域おこし協力隊員として、人と触れ合うことや、田舎ならではの近所付き合いの楽しさを実感している疋田隊員、その活動理念はコーヒーの魅力を多くの人へ届け、コーヒーを通じて人と人との繋がりを創出することにあります。協力隊員として丸森町に良いこと・楽しいことを運び、いつかは自分たちの店舗を持つことが目標だそうです。皆様も、ぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

「〇〇とコーヒー」のInstagramはこちら
<https://www.instagram.com/maruhiki2021/>



令和4年度支部交流会の開催

令和4年11月25日にみやぎ地域づくり団体協議会仙南支部交流会を川崎町で開催し、地域づくり団体の皆様をはじめ、地域おこし協力隊の方々にも御参加いただきました。

川崎町「百のやど」 取組紹介・施設見学



百のメンバーによる取組紹介

施設の外には、太陽光を利用して作り出した温水を施設内に循環させる暖房設備や裏山の木材加工場など、自給自足のための様々な設備があり、参加者の皆様も興味深く見学されていました。

川崎町の宿泊施設「百のやど」は、元地域おこし協力隊の^{みかづき} 昌汰さんを含む「株式会社 百」が運営する宿泊施設であり、科学技術と里山文化を組み合わせ「ベーシックインフラの自給自足」に取り組む活動を行っています。ベーシックインフラとは、百のメンバーが創り出した造語で、生きるための必要最小限の食料（米、大豆、梅、水等）とエネルギー（熱、電気）を意味するそうです。初めに、取組につ

いて紹介いただいた後、

施設内外を見学しまし



裏山の木材加工場

みっけ学舎ホール 昼食・取組紹介・施設見学



荒川さんによる活動紹介

「みっけ学舎ホール」は「元気」をテーマに、レストラン、ショップ、体育館、ミストサウナなどが揃う体験型施設で、廃校になった川崎町^{きゅうもといさご} 旧本砂金小学校の校舎を利用しています。教室はカラオケルーム、校長室はレストランといったように、小学校の面影を残しながらも様々な用途でリノベーションされた施設は、見ているだけでも懐かしい気持ちを引き起こしてくれます。健康に気を使ったヘルシーなメニューが揃ったレストランで昼食をいただいた後、「みっけ学舎ホール」を運営する「一般社団法人 里づくり」会長の荒川雄一さんに校舎内の案内や活動紹介などをしていただきました。

Ikuto（アーバンスポーツ複合施設） 取組紹介・施設見学



マウンテンバイク体験

「ikuto」は、パークール、マウンテンバイク、トランポリン、スケートボード、ボルダリングなどのアーバンスポーツを体験できる施設です。こちらも廃校舎を利用しており、天候に左右されず親子でスポーツを楽しめるようになっていました。「ikuto」は、子どもたちが思い切りスポーツを体験できる施設をつくりたいという思いから始まり、「育人（ikuto）」、つまり子どもだけでなくスタッフも一緒に成長していくという理念のもと運営されています。当日は、運営元の「株式会社トータルサポート」のスタッフであり、モーグル（スキーにおけるフリースタイル競技の1つ）選手の谷口岳穂さん（さん）に取組の紹介と施設の案内をしていただきました。参加者の皆様も様々なスポーツに挑戦し、なかでも、トランポリンが好評で、楽しく体験した後は、谷口さんによる宙返りなど大迫力のデモンストレーションを披露していただきました。



トランポリンを使った宙返り

事務局からのお知らせ

情報提供に御協力をお願いします

仙南支部では、地域づくりに関するイベントや参加者募集など、皆さまからいただいた情報を支部ホームページに随時掲載します。また、チラシ等も県大河原合同庁舎をはじめとする管内の公共・集客施設等に設置します。PRしたい情報がありましたら、下記の宛先までお送りください。皆さまからの情報提供をお待ちしています。

会員訪問を実施しています

仙南支部事務局では、会員の皆様の活動状況等についてお伺いするため、会員訪問を実施しています。事務局から連絡させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本誌についての御意見や、当支部についての御意見・御要望等ありましたら、こちらまでお寄せください。（助成金についての申請・相談もこちらまで）

《みやぎ地域づくり団体協議会仙南支部事務局》

宮城県大河原地方振興事務所 地方振興部 商工・振興第一班

〒989-1243 宮城県柴田郡大河原町字南 129-1

電話 0224-53-3199 FAX 0224-53-3076

e-mail oksinbk@pref.miyagi.lg.jp

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/oksgsin-e/ruikidukuriindex.html>



仙南郷土料理「おくすかけ」

次号は令和6年3月頃発行予定です